

# 人、そして地域がつながり

## 輝き続ける 潤いのまち

また、文化交流センターあゆーむで開催予定の梅津五郎画伯の生誕100周年記念事業を支援していきます。

文化財関連については、文化財活用コーディネートを中心に、引き続き、旧中山小学校体育館内の保管民具の調査を実施するとともに、郷土資料館整備構想の具現化を図っていきます。当該施設を拠点としつつ、日本の紅をつくる町拠点施設と連携していくことで、さらなる文化財の活用と次世代への継承に取り組んでいきます。

### 施策の柱「産業・経済」

#### 農業の振興

本町の豊かな農産物などを活かして、農業者のみならず商工業者など多様な事業者が連携して付加価値を創出する6次産業化の推進に向けて、新たに策定した6次産業化推進戦略を具現化していきます。

また、日本型直接支払交付金事業の積極的活用により、農村の多面的機能の維持・発揮につなげるとともに、スマート農業の実現に向け、新たにドローンオペレーターの認定取得を支援していきます。

#### 林業の成長産業化

適正な森林整備と木材活用による「緑の循環システム」の構築に向け、引き続き、

森林境界の明確化を進めるとともに、「森林環境譲与税」や国県事業を活用した森林整備の実施、再造林後の保育支援を計画的に行っていきます。

また、この豊富な森林資源を活かして、林業・木材産業の成長産業化を実現するため、首都圏での町産木材利用の検討など、新たな木材需要創出に向けた取組を実施していきます。

近年被害が増大している有害鳥獣の対策については、被害の未然防止につながる森林景観や緩衝林の整備、電気柵の導入などに対する支援を拡充するとともに、引き続き、狩猟免許の取得に係る費用の支援を実施していきます。

#### 地域産業の振興

就労環境の改善に向けた取組を展開するとともに

に、新たに正社員化に向けた取組を支援していきます。

商業については、地域交流商業施設に交流広場機能を付加することで、新たな拠点として強化しつつ、買い物環境の充実を図るため、買い

物困難地域の解消や高齢者などの買物の利便性向上に取り組んでいきます。

観光については、新たに地域の魅力発掘・発信のため、東京外国語大学などとのインターンシップによる連携事業を推進していきます。

さらに、今般法人化された観光協会に対し、組織体制の強化と安定した運営に向けた支援を行っていきます。

### 施策の柱「地域力」

#### 安心して暮らせるまちづくり

地域防災力の向上に向け、ため池決壊を想定

し、自主的な避難や普段からの備えの強化にご活用いただくため、新たに防災重点ため池のハザードマップを作成します。

防災基盤の整備については、小型ポンプ積載軽自動車3台を更新配備、有蓋貯水槽や消火栓など消防施設の整備にも引き続き取り組みつつ、新たに救助用半長靴を整備するなど消防団の装備の充実を図っていきます。

特性を生かした地域づくり  
町民が主役の地域づくりをより一層実践する



令和2年度

# 施政方針と予算

**令** 和2年度から、新たな将来像「人、そして地域がつながり輝き続ける潤いのまち」を掲げ、第6次白鷹町総合計画を遂行していきます。

令和2年度をスタート年とする前期基本計画では、地域資源を活かし、相互補完し連携するまちづくりをコンパクト・プラス・ネットワークと位置付けつつ、「人づくり」、「産業・経済」、「地域力」、「定住化」の4つの分野を施策の柱として着実に進めることとしています。特に、人口減少緊急対策として、住環境の整備などによる本町版「職住育近接」を実現することで、子育て世代の転出抑制および移住促進により、定住人口を確保していきます。

そのほか、本計画で掲げた各施策を確実に実行していくことで、新しい令和の時代にふさわしい、希望にあふれ、町民一人一人が生き生きと活躍し輝く、未来につながる町を目指していきます。

## 施策の柱「人づくり」

**子育てしやすい環境づくり**  
結婚・妊娠・出産・子育てまで切れ目のない支援、婚活サポートなど、少子化対策を総合的に推進していきます。

特に、子育て支援については、令和2年度を初年度とする第2期「子ども・子育て支援事業計画」にのっとり、次代を担う子どもたちの健やかな成長と子育て家庭の支援をしていきます。

また、幼児教育・保育に関するサードビスについては、町内の教育・保育施設全園での0歳児からの保育受け

入れや延長保育、一時預かり保育などを引き続き実施するほか、新たに病児保育施設などの利用料の一部について支援をしていきます。

## 教育の充実

教育とは、未来への大きな投資であり、教育による「人づくり」は、いわば、将来の町をつくるものであると考えています。

学校教育関連では、グローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上に向け、小学校における英語の教科化などに対応するため、英語指導助手、いわゆるALTの配置の拡充を行い、新たに英語における、聞く、話す、読む、書くことの

4技能の診断・評価・指導改善を行う検定プログラムを取り入れ、英語教育の充実を図ります。

また、未来を生きる子ども達にとって、パソコン端末は鉛筆やノートと並び必須のものであり、今や、社会のあらゆる場所でICTの活用が日常のものとなっています。そのため、必修となるプログラミング教育には、ICT支援員配置による授業支援を全小学校で実施することで対応していきます。

さらに、少子化の中、将来を担うかけがえのない児童生徒を大切に育てるため、学校生活支援員の増員により、きめ細やかなサポート体制のさらなる拡充を図ります。

## 地域の担い手の育成

荒砥高等学校の魅力ある学校づくりに向け、引き続き、新入生応援事業や介護職員初任者研修、教育支援員の配置、部活動への支援を実施していくとともに、白鷹高等専修学校についても、教育体制の充実に向け、置賜管内各市町と連携した支援を継続していきます。

生涯学習、芸術文化面では、より多様な学習機会の創出を図るため、町民自らが企画し実施する自発的な生涯学習活動への支援を行います。